

パネルディスカッション基調講演

新潟県中越地震に学ぶ地域コミュニティの役割（高校生に学ぶ中越大震災）

講師 重川 希志依 富士常葉大学環境防災学部教授

「新潟県中越地震に学ぶ地域コミュニティの役割」と題して、パネルディスカッションの基調講演が行われました。

講演内容は、一昨年に発生した新潟県中越地震の被災地における高校生の体験作文を基に、絆の大切さ、そして今何をすべきなのかの問題提起となっています。以下にその概要を紹介します。

内容は、被災地の高校生に書いてもらった「自分への表彰状」を中心として、被災地における自らの支援活動経験を交えたものでした。高校生たちが地域コミュニティの中で、あるいは家族の一員として震災をどのように体験してきたのかが紹介されました。

1. とてつもなく大きな恐怖の時間のなかで

大変な大きな恐怖の時間が訪れること、地震が発生した土曜日の夕方（5：56）は、家族がバラバラな時間帯であったことが、ある女子高生の体験談を基に説明されました。

2. 自分の命、大切な人の命を守るために

揺れが収まった次は自分の命を守ること、次いで大切な人の命を守ることが、二人の作文を基に紹介されました。揺れている間はじっとして自分の命を守ることの重要性が併せ説明されました。

3. 家族の安否を確かめるために

自分の命、周りの大切な人の命を守った後、次に行ったことは家族の安否を確かめること、電車も止まってひたすら歩いて帰った親子の体験談の紹介がなされました。

4. 続く余震のなかで

余震が激しかったため、車の中へ避難した体験談。親戚が亡くなり、祖父母や母親が泣き、父親が救助のため出向いた状況下で、平常心でいようと誓った体験談が紹介されました。

5. 全てのライフラインが止まった時、自分たちの暮らしを守る

水、電気、ガス、電話、交通など全てのライフラインが止まった中で、どうやって自分たちの暮らしを守って行ったか、避難所でご飯の配給がなくなったらクッキー5枚だけもらったこと等の体験談、他方、近所の人と助け合ったご飯作りを通じ、いつもはしない手伝いが楽しかったこと、救援物資を分け合い助け合うことの喜び等について併せ紹介がありました。

6. 家の片づけからスタート

新潟市に非難した家族が往復4時間かけて家の片付けに通った事例が紹介されました。

7. 損得を考えずボランティアをした沢山の人たち

損得を考えずボランティア活動をした沢山の人のこと、また、被災者が生きていることを実感したとき、生きているならしなくてはならないことが沢山あると思えるべくボランティア活動に参加するよう心がけた事例、ゴミ捨て場で災害ごみを一つ一つ分類していた学生の事例、子供と遊んであげるボランティア等の事例が紹介されました。

8. 沢山の人を励ませる元気な小千谷にしたい

中越大震災が起きたことで地域の人や市外、県外からのボランティアの人々が助け合うことで一つとなれた。今度は市外、県外の人々を励ませるような活気あふれる小千谷市になって欲しいとの体験談紹介がなされました。

9. 大切なこと

紹介した体験談は全て高校生が書いたままの表現であることが紹介され、いまどきの高校生、大人の言うことも聞かず、生意気盛りで一体何を考えているのだろうと思うような高校生が、ひとたび地震が起きたときに紹介したようなことを感じ実行し決意をしていること、命の大切さ、家族の絆、地域の人たちとの助け合いの大切さ、友達との輪、ボランティア知らない人たちとの助け合い、いくつもの人と人との繋がりで地震を乗り越えてきたことの体験等、大変すばらしいことを教えてくれたことが説明されました。併せて、いつ地震災害が起きるかわからない全ての地域の人が耳を傾け、絆の大切さと今なにをなすべきなのか真剣に考えることの重要性が説明されました。